

Vivienne's Diary : 2014 年 1 月パート 1

1/1 (水) : 明けましておめでとうございます。私たち家で静かなクリスマスを過ごしました。夫アンドレアスと二人だけで過ごしていたのですが、時々一緒にクラバムコモンに散歩に行きました。この時期の、特に天気が悪い夕暮れ時の時間が大好きです。そうして天気が悪い中外で過ごしたら、暖かい家に帰れるでしょう。アンドレアスは私よりよく散歩に出かけていました。時々誰も居ない場所を一人で黙々と歩いたようです。アンドレアスはアメリカの美術史家、バーナード・ベレンソンの伝記を読んでいたのです、彼について少しでも教えてくれました。

ベレンソン (1865-1959)はイタリアの教会や家、また莫大なコレクションで、どれも公に公開されているアートを見ようとイタリアの旅を始めました。フローレンスにあるウフィツィ美術館は 1824 年にオープンしました。フローレンスは特に重要な場所で、メディチ家のコレクションが構築されています。それは過去においてとても興味深いもので、特にルネッサンスに火をつけたペイガンの世界があります。

調べて、区別して、そしてベレンソンは美術書を書きました。彼のアートの知識はいったん彫版を通して拡散されると、写真復刻も伴ってやがて広く知られることとなりました。ベレンソンはアートが本物であるかどうかを売り手と買い手に証明する鑑定士の権威者となりました。多くのヨーロッパのアートがアメリカへと出て行ったことがここに始まるのです。アメリカの重要なアートコレクションの中心となるものは、これらのコレクターの遺贈品です。特にベレンソンは、裕福な未亡人、イザベラ・スチュワート・ガードナーに助言をしていました。ガードナーはそのトップレベルのアートを獲得し、ボストンギャラリーを建てました。

ベレンソンはそうして利益を得て、フローレンスを見渡せる別荘、タッティ邸に彼の有名な美術書を収蔵しました。この時代は他にも重要な美術史家がいましたが、ベレンソンは多くの人に知られていました。彼はエレガントでカリスマ性があったのです。彼はマルセル・プルーストの長編小説「失われた時を求めて」の第一遍「スワン家の方へ」のモデルの一人でもありました。スワンはオデットと言う名の娼婦が、ボッティチェリに似ているからという理由で恋をしました。



私は大好きな中国の名作を集めた図書を読み、書類に目を通していました。パソコンは情報を貯めておくには便利なものだと知ってはいますが、私は使いません。その代わりに必要な記事をコピーした山積みの書類が、私の情報を貯め込む場となっています。それらの記事の多くは私が選んだもので、シンシアがインターネットから引っ張ってコピーしてくれます。

私はこれらをもう一度読み直して、もっとも重要な物だけをとっておきます。ジョン・ピルガーの本や記事を、「ヒーローズ」という本が出版された1986年より読んでいますが、その本の中で、ベトナム戦争について書かれた章があります。そこでジョンはレポーターとして働いていました。アメリカが権威を振りかざし、世界の主導者となり、地獄を作り上げ、信念を越え、悪の想像もはるかに越えたベトナム戦争です。

15 American soldier and 'suspected Vietcong', Vietnam,
(*photograph: Philip Jones Griffiths*)



写真のキャプション：ベトナム戦争で亡くなったベトナム人は推定 3800 万人、アメリカ兵は5万8千人とされています。

みなさん、アメリカでその時一体何が起きていたのかが分かる驚くべき映画を見て下さい。ウェザーマンがベトナム戦争に反対してアメリカで戦っていたのです。 [The Weather Underground](#)

ジョンは私と同年です。45歳の時の私は、すでに世界の政治をしっかりと把握していましたが、「ヒーローズ」を読み、全てが腑に落ちたのです。ジョンは実際の世界で起きる出来事と直接的に関わりあっていたためたくさんを学んでいました。そして多くのことを成し遂げました。いくつかの本の出版とカンボジアのポルポト政権を野ざらしにしました。「ヒーローズ」の中で、ジョンは「チョムスキーが指摘したように、アメリカの政策はベトナムそのものとは全く関わりがなかったのだ」と言っています。アメリ

カはベトナム戦争で負けるはずだったのです。しかしアメリカは自分たちの目的を果たしました。その目的とは恐ろしいもので、もしアメリカがその目的を果たさなければ、ベトナムは資本主義をモデルに、他のアジア諸国を真似したのとは全く違う財政モデル（もっと社会的で、もっと公平な）を持っていたことでしょう。「東南アジアで征服した国と言うよりは、アメリカはベトナムを荒らし、封鎖し、孤立させました。そしてほとんどのあらゆる体制をアメリカの利益下に置きました。」一つ私たちが知っておかなければならないことは、世界では低賃金労働が続いています。アメリカの利益と資本主義が、人口密度の高い地域、特にインドネシアを食い物にしているのです。

私のコピーの中に、ジョンによって次のように書かれた記事があります。
「1898年にインド総督であったカーゾン卿が、『国家はチェスボードの上に乗っている駒である。世界を支配するための偉大なゲームとして遊ばれているのだ。』と書いていたが、その頃と何も変わっていないのだ。」

その記事ではアメリカがイギリスとオーストラリアの助けを借りて今日引き起こしている、戦争と言う名のゲームを明確にしています。エネルギーを手に入れるため、鉱物があり土地が肥えたアフリカへの侵入。そしてこれら3カ国の軍隊は同じくアフリカの資源が欲しい中国に対抗するためアジアで強化されました。

「何も変わっていないのだ」中国を以前侵略した日本もこのゲームに参加し、すぐさま再武装しました。2020年までにアメリカ海軍の60%は、中国を狙いとするためアジアを拠点とするのです。

その他私のコピーには、これまでにたまってどんどん膨らんでいるアメリカの負債（倒産を除いて）は軍事基地だと書かれていました。（軍事基地は日本に23あります。）

さて、今ジョンの記事の中で「NATOが2011年にリビアによる軍事作戦を終了して以来、アフリカに対する最後の障害は崩壊してしまったのだ。」と述べています。それで私のコピーをもっとよく理解するために、私は「Everyman's Encyclopaedia」の中から、まだまだ読んでいないホップズ（1588-1679）の本「レヴィアタン」を「Companion to English Literature」の参考文献をもとにホップズについて調べました。「ホップズの政治哲学の原理では、アリストテレスが、人間とは自然に社会的存在として地域の要求を認識し、成功を分かち合う生き物だと述べたような、そのような人間は存在しないと言っている。しかし全くの利己的な生き物は、自分の利益だけを追求し、他の人たちの要求に対して抵抗する。その結果は争い、対立、そして戦争となる。」彼は、自然な状態の人間とはこのようであったと言っています。どうしてそんなことを知っていたのでしょうか？

アリストテレスの所見では、人間の社会性は人間が繁栄することができる社会構造に帰着すると言われていますが、平和で共存ができる文化生活を、ホップズも生きたこの世界に、戦争が結びつけてくれるとは私には理解でき

ません。多分彼は釈明をするでしょうが、落ち度だらけに違いありません。なぜなら基本的な根拠の半分しか事実ではないからです。これがほとんどの哲学者の問題です。彼らはナンセンスなことでも、部分的な観測しかできてないことでも提言してきたのです。そうやって頭の体操を延々としながら自分たちの理論を守り続けてきました。トーマス・ホブズは帰納法より演繹法を好みました。どういう意味かと言いますと、まず先に理論を考え、それを理由付けすることによって証明するのです。帰納法は使える事実を（願わくは全て）評価します。

ホブズの人間が利己的だという部分の見解は、人間は物質的な必要性や欲望によってのみ動きたくなるという人間の本性を、機械的に見た見解だと言えます。ホブズはそれから人間はこれに同意しなければならないという理論を作り上げたのです。なぜなら、人間は、支配者（イギリスの場合で言うと、君主です）となった者の権力を受け入れ、支配者が支配している者達の身を守ることに失敗しない限りは、その支配者に従うことが絶対とされてという、人間が絶えず争わないでいるための利害関係の中にいるからです。

私は「レヴィアタン」を読むかどうかは分かりませんが、この理論は他の機械的な理論、例えば「レッセフェール（自由放任主義）」や自由市場（完全に遊びのレベルではないシステムの装備の出来に依存したもの）や、それから人間の悪質な教養、例えばヴィクトリア時代の有名な格言に「人間の利己的行動は神の摂理である」とあるように、神は人間が繁栄するために、人間を利己的に作り上げた必然的結果として、貧しい人々は自分たちで何とかしなければならないというような理論を支えたのです。

また私は、人間の「同好会」の根源となる準備をするその理論は、機械的な見方をするように訓練されたものだと思っています。そしてそれ故に、訓練された人たちは、馬鹿で感情的な私たちにとって何が一番かを知っているのです。（「メディア・コントロール」ノーム・チョムスキー）

私はこのこと全てを皆さんにお伝えします。なぜならば、これは興味深くもあり、また現在を知るには過去を知る必要があります、また言葉の根源を辞書で引くのもとても重要なこと（**deduction** はラテン語の動詞 **ducere**=導く、**de**=離れる/**induction**=導き入れる（**Duke**=リーダー））だと思うからです。

そしてさらに面白いことを付け加えますが、古代ギリシア人は画一を狙いとした不完全な理論によって暴力が与えられると理解していました。「担架」という意味の名を持つプロクルステスは伝説的な泥棒で、見知らぬ旅人に話しかけ、その旅人の身長が担架に合うかまたは切除して合わせてから旅人を行かせたそうです。（**fabulous** という言葉は **fable**, 本物ではない話という言葉からきています）

大晦日の夜中の2時半に目が覚めました。考え事をしていました。**Climate Revolution** はイギリスでのフラッキングを避けるために **NGO** や活動家グループ、組織や個人と一緒に活動をしています。初めの一步として、事実を公に

公開する際に文書を一緒に立案するつもりです。多くの方がそれに署名してくれることを望んでいます。私たちは、農場経営者の支持を得る事にも力を入れています。

私が心配しているのは、デヴィッド・キャメロンが公平な話し合いなしに先に進む事はないと言ったにも関わらず、私たちが政府から聞くのは、全てもう先に進んでいるのだということです。認可は下され、さらにたくさんの方が起きるでしょう。反対派の私たちは、メディアに対しての発言権を持ちません、ですので一丸となって対抗することが重要なのです。私たちは幅広い支持がほしいので、ただ単に政府は嘘をついているだけだとは言えません。しかし多分、政府は無責任な態度をとっていると言うことはできるでしょう。

私が政府から聞いたことは何一つ正しくないのです。政府は私たちの土壌、水や美しい田舎が滅茶苦茶に破壊されるという危険を冒してまでも何百回というガスの井のテストをしたいのです。そうすることで、企業や投資家達は儲ける事ができるから。そしてそれはたった5年しか続かないというのに。シェールガスは政府が言うように豊富ではありません。そしてその代わりとなるものには目も向けられていません。

1/6 (月) : 仕事始めです。クリスマスと新年の休暇は休暇と週末の間に1、2日だけ普通の日が残ったというおかしな週中から始まったので、みんな6日まで休んでいました。

1/7 (火) : デボラ・オーの「The Gentlewoman」2月22日発行号のインタビューを受けました。ファッションの写真が4ページ分ですが、インタビューの内容は気候の変化についてです。多くの人に気付いてもらうためにこういったインタビューを受けるのは大事なことなのですが、現状仕事が忙しくて(好きなブログを書くことにも忙しいので)インタビューの数は減らしています。本当に重要でやってみたいことがたくさんあります。明日のフラッキング反対のミーティングを楽しみにしています。(一方、中国の国家主席とローマ法王はどうなっているの!)

1/8 (水) : オールドストリートにあるカーテンロードの写真スタジオに。1970年代にこの仕事を始めた時、私は1週間のうち3回は下請けの人たちの所へ行くためにロンドン中を車で走っていました。私が生地を裁断し、それを縫製してくれる人のところへ持って行き、またニットのパターンを私が作り、ウールを手作業で縫ってくれる人の所へ持って行き、そしてギリシアの職人さんのところへ服の仕立てと靴ができるよう素材を運んでいました。カーテンロードではトリミング(衣服のための装飾品)屋に行きました。その商店はとても大きな倉庫で、床から天井までたくさんのトリミングの宝で埋め尽くされています。この頃は、ブローチからトリミングを選ぶか、自分たちでデザインしたものを通常はイタリアの個人での取引はできない業者に送って作っています。

「The Gentlewoman」用の私の写真をアラダー・マクレランが撮り、スタイリストにはジョナサン・ケイが。彼らはとても素敵で手際もよく、撮影はとても楽しいものとなりました。

さて、今年後の3時です。フラッキング反対のグループとの会合のために、アムウェルストリートにある息子ジョーのところへ行きました。Climate Revolution の役割は、ジョーの協力も得て、様々な活動家グループを集める努力をしてきました。みんな「政府は無責任な態度をとっている」という言葉を使用するアイデアが好きなようでした。私たちは文書のメインとなる内容について話し合いました。さて、もう大丈夫です。重要なことには、政府が私たちの質問に答えてくれるまで(政府の要求を論破するつもりですが)政府を足止めするという要求をします。私たちが共には活動している人たちには、体を使って抗議デモをする組織もあり本当に印象的なのです。そして私たちみんなは、抗議に焦点をあて続けるため、同志であるこの気候の活動家たちを信頼しています。

私はいつも同時に3つの事を行っています。洋服のデザイン、QvQ 質と量の戦い、そして Climate Revolution です。

1/10 (金) : アンドレアスと私は、メンズコレクションの準備のためミラノへと行きます。ショーは日曜日です。そして翌週1週間は私たちのイタリアのショールームで、Gold Label を除いたアクセサリー類も含む全コレクションがバイヤーや私たちのショップに売り始められます。そうしてロンドン、パリ、ロサンジェルスでまた売られます。私たちのイタリアの建物にはたくさんの人たちがいます。私はユニセックスのニットウェアを見栄え良く改良するよう集中しています。(イタリア支社にいるエリーザは、とても素晴らしい仕事をしてくれました。たった3日間でそれをしてのけたのです。)



また私は、たった今届いたばかりの Red Label も見えています。概ね満足しています。「このコレクションを着る女性には、身の回りの世話ができ、暖かく、冒険好きで、尊大で芸術的であってほしい。」MAN のコレクション、

スタイリング、キャスティングをアンドレアスとゲオーグに任せました。ゲオーグにはこのシーズンのために思いっきり自由にデザインをしてもらい、そして彼はとても懸命に仕事に取り組んでいました。ショーの出来栄は良かったです。フラッキング反対のインタビューをします。

1/14 (火) : 家。

1/15 (水) : 午前 10 時に、ブラックフライアーズ橋の近くに停泊している「The President」という船の上で記者会見があり、そこで私は「エコサイド（環境の大量破壊）」について話すつもりです。エコサイドの概念は 1970 年代より広まっています。平和のためにエコサイドを犯罪とすることは国連内で 1970 代年から 1990 年代の何十年にも渡って検証されてきました。1996 年に、投票がなされることもなく、また多くの国がその排除に反対したにも関わらず、法案は最終段階で握りつぶされてしまったのです。イギリスの弁護士ポリリー・ヒギンズと代弁者は 2010 年に[平和のためにエコサイドを犯罪とする](#)というアイデアを取り上げ、人々がそれにまた答えることができるかを判断しています。

「エコサイドは所定の領域の生態系に対しての、広範囲に渡る破壊や損失です。その領域に住んでいる人たちの平和な喜びが減らされるか、または酷く減らされるまで人の力やその他の理由によって損害を与えられるのです。」

2010 年 4 月ポリリー・ハギンズ

ポリリーはイギリスでのエンドエコサイドの任意ディレクターであり、できる限りのことは協力すると言ってくれたプリスカ・メルツの後にスピーチをしました。[プリスカのゲストブログ](#)。エンドエコサイドはまだ小さな組織ですがとてもよく動いています。彼らはすでに二つの模擬裁判をしました。そのうち一つでは 2011 年のカナダアルバータ州のオイルサンドを告訴しました。「エコサイド法が 2011 年 9 月 30 日にイギリス最高裁判所で初めて模擬裁判を試験的にしてみた時に、二人の CEO たちは、カナダのアサバスカ地域のオイルサンド事業によるエコサイドの二つの起訴状により有罪とされました。その出来事は、テレビドラマの続きを見るために画面を見ていた世界の何千人という人たちに、スカイニュースのライブストリームで流されました。勅選弁護士のマイケル・マンズフィールドやクリス・パーカーを率いて、GPC のバナーマン氏と GG のトレンチ氏の弁護士チームは、二人の足元にあるその起訴状を取り下げようと戦いました。CEO 二人は俳優で会社は架空のものであったけれども、証拠は本物、論点も同じで、まるで会社の本物の CEO たちがその出来事に巻き込まれていることが試されているかのようでした。」

もしあなたが、自分が持つアイデアを具体化させるならば、人は助けてくれます。そしてこのことが人助けにおいて私を魅了するのです。だから私は「The President」でのスピーチをしました。この船は使用料をただにしてくれました。（私たちは香水を発売した時に一度この船を使いました。）私は「エコサイド」という言葉を聞くだけで皆さんの意識を高める事も分かっ

ています。しかしこの進水の後で、参列者も多く、プレスによってもよく報道されました。そこで私は、行動をおこす事は、具体的な結果を生む本当のチャンスがあるのだと気付きました。

1/17 (金) : 私の友達ロナ・タッカーが雑誌「Dazed and Confused」の私のインタビューをしました。その号ではファッションウィーク中ということもあり、ゲストとして私が編集に携わることになっています。

1/18 (土) : アンドレアスと私はケイト・モスの 40 歳の誕生日パーティーにコッツウォルズまで行きました。車で 90 分ほどしかかかりませんでした。とっても楽しかったです。パーティーでは、めったに会えない友達に会うことでとても忙しかったです。古い友人のクリッシー・ハインド (かつてはどこへ行くにも一緒でした)、サディー・フロストと彼女のお母様 (彼女達を Red Label のショーに招待しなくては。今回の Red Label はサディーが 16 年前に初めてモデルをした頃のコレクションにインスパイアされています。)、ステラ・マッカートニー、リファト・オズベック (彼がサイケデリックな室内装飾をデザインしていました)、そしてケイト。「ハロー！」 (前にも言ったと思いますが、彼女の声はとてもセクシーで深いのです。彼女の声はいつも何か陰謀があるかのように聞こえます。でも、何の陰謀かしら？いつかそれについて答えを出さなければ。) それからナオミ！アンドレアスは彼女のことが大好き。彼女は本当に女神みたいな。またそのように振る舞っているし、物を動かす力があるのね。



1/20（月）：別の仲の良い友達で世界的に有名なピアニスト、ジャン・イ
ヴ・ティボーデ。アンドレアスと私は仕事の後自転車に乗ってウイグモアホ

ールに行きました。そこではジャンとメゾソプラノのアンゲリカ・キルヒシュラーガーと一緒にコンサートをしました。私はウィグモアホールとそのコンサートが大好きでした。そしてとってもラッキーだったのです。ジャン・イヴはあり得ないくらい優しいのだから。彼の素晴らしい才能が彼をスターにしているだけでなく、彼自身が魅力的なほど素敵で楽しいのです。私たちは彼の友達ポールとも一緒でした。

1/21 (火) : 量より質。ウィーンのショップを運営しているグレゴールに会います。Red Label で何を買付けしたかを見せてくれます。まだ見直して変更できる時間があります。午後、オフィスからトリリオン基金へ。そこでは基金のチームがシンシアと私に進捗状況と私たちからの質疑に答えてくれるようになっています。彼らは再生できるエネルギーに投資をしてくれる数少ない投資家達のためにずっと働いています。すなわち再生可能なエネルギーに大衆が関われるだけでなく、バンキングシステムをもっとコントロールできるという意味合いがあります。

1/22 (水) : タイザーと私は仕事の後、BAFTA にノミネートされたスター達を集めた写真展見に、サマセットハウスまで自転車で出かけました。その写真展はアンディー・ゴッツによって撮られたもので、一カ所に最も多くの映画スター達が集められた展示会だったでしょう。私たちはアンディーにお礼を言いたかったのです。なぜならば、彼は私たちがグリーンピースのためにデザインした「Save the Arctic」の T シャツをセレブ達が着た写真を撮ってくれたからです。

ACADEMY AWARD[®] NOMINEE

Best Documentary Feature

“★★★★”

“...a terrific movie, energetic and articulate.
It's the don't-miss documentary of the season.”

—*Christian Science Monitor*

A DOCUMENTARY FILM BY SAM GREEN AND BILL SIEGEL

THE WEATHER UNDERGROUND

THE EXPLOSIVE STORY OF AMERICA'S MOST NOTORIOUS REVOLUTIONARIES

“A great story!
Terrifically smart!”
—*Elvis Mitchell,*
The New York Times

“Essential
Viewing”
—*The Boston Globe*



“Exhilarating.
Couldn't be
better timed.”
—*The Washington Post*

“Powerful and
searching!”
—*Entertainment Weekly*

NARRATED BY LILI TAYLOR

with BILL AYERS, KATHLEEN CLEAVER, BERNARDINE DOHRN, BRIAN FLANAGAN, DAVID GILBERT,
NAOMI JAFFE, MARK RUDD, LAURA WHITEHORN, and TODD GITLIN

DVD
VIDEO



私は手紙を受け取るのが大好きです：友達のバッチェからです。時々タイプライターで書かれたり手書きだったり。気候の変化について書かれたものを抜粋しますね。

development plan to supply "the LNG to Hungary" via a
Necon one, continually on its knees with its lips puckered for
the infamous key to oil interests.

It's worth noting that in the
case of the successful resistance of Bulgaria to fracking,
it was initiated by farmers & local people, but expanded by means
of the Internet (Just as you are doing for the "Climate Revolution")
Activists expanded the protest & demonstrations, by translating the
data on the internet, when necessary, helping to organize an internet
petition of 51,000 signatures, & 60,000 Facebook followers.

Here's what happened. The Bulgarian boot print proceeded without
information to people. The Media followed by only praising the
Plan. The country began to protest from information on the internet.
The protests grew and manifested itself by protests before the Ministry
of Energy, and grew in cities, until finally there were demon-
strations in 15 Bulgarian cities, and solidarity demos in London,
Paris, & Copenhagen. That was on 14 Jan 2012. Four days later,
the Bulgarian Parliament voted to ban fracking 166-6. Hurrah, the
Resistance!

In an interview with Josh Fox who made the film "Gasland"
(It has a famous scene where a Colorado resident showed how fracking



Mr Noel Parker-Jervis
3549 Cardiff Pl
Victoria BC V8P 4Z2

9 Dec. 2013

Dear Vivienne:

Thanks for the latest blog & the Climate Change call. There is *here an* effort by tarsand companies to move it to BC ports and to ship it as diluted bitumen. Tarsands won't move in a pipeline unless it is diluted. The whole project is vehemently opposed by most BC people who value the environment, terrestrial & marine, & especially by our native Indians. We have succeeded in delaying it by years. But both the BC & Federal Govts are for it (They are "ruled") for immediate economic reasons. Destroy the planet tomorrow to get business today!

We don't oppose it just for the immediate dangerous destruction along the pipeline & marine routes, but also because of the underlying destructive climate change involved in the increasing tarsands work.

There is another issue that threatens us in BC. We have a northerly area of agriculture - the Peace river valley. As you are well aware, & as your maps show, climate change affects most aspects of life adversely, but with respect to agriculture, Canada is lucky. Warmth will bring a longer growing season. The Peace river area will become even more valuable farming land. Just at this critical point, the BC Govt plans to build a massive hydro-electric dam that will flood much prime land & the wildlife corridor on it. Hydro-electric power is as green as you can get. But that is negated by the purpose of the dam. Its power is to be used for extraction of natural gas by fracking. That's about as far as may be from green. And then by conversion of the gas to liquid for shipping elsewhere.

The BC Govt is touting this LNG effort for its immediate economic effect by encouraging many energy companies to enter. Companies are interested but not yet finally committed - may *the* gods be thanked. I *hope* they are dissuaded by Australia's example. They rushed like mad to build LNG plants for the Asian market, but are now back tracking.

The Rulers & the Ruled see no further than instant economic activity however deleterious. Unlike the Vivienne Westwoods of the world who know "What's bad for the Planet is bad for economy". Earth is for Life!

Wonderful photo of you in that replica of Good Queen Bess' dress. Great work by that Berlin student of yours. You must have inspired & taught her/him well. You were superb in the dress. Bess knocked off the Armada. You lead the climate Revolution!

I share your admiration for Kohn Pilger. He is an intrepid reporter and a man for humanity. Do you know a magazine called New Internationalist? (newint.org) The November, 2013 issue has an article on Pilger's recent endeavours.

Thankyou for your summary of Ms Hudes valuable whistle blowing. I applaud your change of "elite" to "rulers". You make a proper and nice distinction as to "elite".

I am working on a paper for the Editors of our local daily. I want to alter the ordained mindset to one more sceptical about Big Pharma, Big Finance, etc. With the help of your recap of the Hudes revelations, and data on the degradations of Big Finance I hope to persuade them to write or accept articles that will make readers vomit every time they pass a bank/ And get themselves fired!

To you & Andreas all best wishes & admiration for your tireless work in fashion & for the world..

Love
Bachee